

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591100056		
法人名	(有)ライフサポートながと		
事業所名	グループホームゆうなぎ		
所在地	長門市仙崎40番地1		
自己評価作成日	平成28年11月18日	評価結果市町受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、白濁湾を望む高台からの眺めが素晴らしく、入居者やご家族等訪れる方々に喜んでいただいている。リビングの窓からは、家庭菜園や花壇が眺められ大きな窓から差し込む陽射しが暖かな雰囲気の中で、リラックス効果や認知症にも効果の有ると言われているアロマセラピーを取り入れ、ハンドマッサージやフットマッサージを行いゆったりと安心できる環境づくりを行っている。食事は入居者の好みを聞きながら、旬の食材や地元の物を取り入れ、三食とも事業所内で調理し、盛り付けや配膳等職員と一緒にしている。また、毎月、法話や書道、生き生き音楽教室などの他、地域ボランティアによるレクリエーションなどがあり、地域の方々との交流も行っている。職員は常に理念である「誠実」を念頭におき利用者様に安心して生活して頂けるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公民館が主催している「仙崎思いやりネットワーク」の一員として、職員が徘徊模擬訓練に参加されている他、利用者が公民館祭りや小学校のバザーなどに参加されて地域の人と交流しておられるなど、事業所が地域の一員として日常的に交流しておられます。利用者ひとり一人の希望に添った外出支援や多彩なボランティア(お話ポケット、法話、書道、お笑いヨガ、いきいき音楽教室、ギター演奏など)の協力を得て行う楽しみごとの支援、職員が月替わりでリクレーションを担当されて家族や地域の人、児童などを事業所の行事に招待されているなど、地域の人と一緒に楽しむことができるよう支援に取り組んでおられます。運営推進会議は、3地区の自治会長や民生委員、福祉員などのメンバーに今年度は新たに1名を加えて、年6回開催しておられます。事業所の災害ボランティアに地区の消防団員や民生委員、地域の人登録されて、緊急時の連絡網を作成しておられるなど、災害時の事業所と地域との協力体制を築いておられます。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立てられ、看護師の指導で定期的に応急手当や初期対応の研修を実施しておられるなど、改善に向けて取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「誠実」を事業所内の玄関及び各ユニットに掲示している。業務日誌の巻頭に理念を挟み、常に職員の目に触れるようにしている。また、月1回の職員会議や申し送り時に職員間で確認し共有することで実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示し、業務日誌の表紙に掲げている。毎月の職員会議や研修会で運営者や管理者が話し、地域に開かれた事業所として利用者にも来訪者(家族や地域の人)にも「誠実」であることを確認して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、公民館が主催する「思いやりネットワーク」の一員として防災訓練や徘徊模擬訓練に参加している。仙崎小学校主催のバザーに職員と一緒に出掛けたり、仙崎公民館まつりに参加し地域との交流を深めている。非営利活動法人きらりに通う子ども達との交流会も定期的に行い交流の場を設けている。また、個別で月1回地元のコーラスサークルに参加される利用者の送迎を行い地域との関わり合いの継続支援を行っている。運営推進会の他、敬老会や試食会にも地域の代表者等をお招きする他、定例(月1回…法話・書道・お話ポケット・いきいき音楽教室・ギター演奏会・笑うヨガ、月2回…移動図書館)及び随時の行事として随時…地域ボランティア受け入れ・地域ドライブ・外出散髪・外出美容院などを行い地域の人と挨拶を交わすなど交流を深めている。	自治会に加入し、公民館が主催する『仙崎思いやりネットワーク』の一員として、職員が徘徊模擬訓練に参加している。利用者は公民館祭りや小学校主催のバザーに参加して地域の人と交流している。地元の障害児施設「さらり」の子供達を事業所の行事(ハロウィン、豆まき、夏祭り)に招待したり、運営推進会議やSNSを活用して、敬老会や試食会に地域の人を招待し、参加を得ている。月2回の移動図書館や月に一度定期的にボランティア(お話ポケット、法話、書道、フラダンス、歌と踊り、ハンドベル、お笑いヨガ、いきいき音楽教室、ギター演奏、ドックセラピー、琴、ピアノ、金管楽器演奏等)の来訪があり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「仙崎思いやりネットワーク」の一員として研修を地域住民と参加する中で、また2ヵ月に1回行われる運営推進会議の中で、地域の人々に向けての認知症理解を頂くよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者が職員会議にて職員に対し評価の意義について説明し、また管理者も自己評価するための書類を全員に配布し、記入の後がまとめている。 職員は、自分の介護の振り返りと捉え、積極的に改善しようとしている。 前回の評価を受けて目標を作成し、施設内看護師による感染症対策(インフルエンザ・ノロウイルス・食中毒)の研修や救急車を呼ぶまでの応急手当等の講習を受け、また定期的に消防署職員によるAEDを使用した救命処置を受講するなど、達成出来る様取り組んでいる。	月1回の職員会議で職員全員に運営者と管理者が評価の意義を説明し、評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者がまとめて回覧している。職員は自己評価をケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標計画を立て、応急手当や初期対応の研修を7回実施しているなど、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、行事報告・活動報告・職員研修・入居者の近況報告・ヒヤリハット・事故報告・家族との交流会(食事会・地元ボランティアによるハンドベル演奏・作品作り・運動会・クリスマス会)地元消防団協力による防災訓練、夜間想定避難訓練の結果報告や話し合いを行う事でサービス向上を図っている。また、議事録も送付し話し合いの内容を家族に周知して頂く様働きかけている。	会議は、年6回(内2回はデイサービスと合同)開催し、今年度は、新たに1名をメンバーに加えている。事業所での催し物(新年会、昼間想定避難訓練、アロマハンドマッサージ、講演会、クリスマス会、昼食試食)と合わせて開催し、利用者の状況、行事報告や予定、研修報告、事故・ヒヤリハット報告などを行い、意見交換をしている。会議で地域の情報を得て、利用者の外出支援に活かすなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議の他、様々な相談等で出向いたり電話で連絡を密に行うなど、情報交換や協力関係を築ける様働きかけている。また、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の他、地域ネットワーク会議や研修会で情報交換を行っている。	市担当者とは、運営推進会議の他、直接出向いたり電話で困難事例の相談を行い助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、地域ネットワーク会議や研修会で情報交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゆうなぎ身体拘束廃止に関する指針をマニュアルに作成し、内部研修にて職員は学び理解している。また、玄関は施錠せず、外に出たい利用者については職員と一緒に同行している。施設内に於いても自由に動ける様にしている。 スピーチロックについては、施設長や管理者が職員会議等で指導しているほか、職員間でも話し合いを行っている。	マニュアルがあり、年1回の内部研修で学んでいる他、職員会議で運営者や管理者が指導し職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックなど気になるところがあれば職員同士で注意し合っている。玄関は施錠しないで、外出したい利用者とは一緒に外出しているなど、工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域ネットワーク会議に於いて高齢者虐待予防研修を受け、職員会議後の施設内研修にて伝達講習を行い職員間で学習した。また、「要望承り書」も設け些細な利用者の言葉も見逃さないようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者が在籍し理解はしている。また、全職員が理解出来る様、パンフレットや資料を回覧している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際、家族の要望や思いを聞き取り納得頂ける様心がけている。また、疑問に思う事や納得できない事は、遠慮なく言って頂くよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の受付体制や第三者委員・処理手続きについて契約時に家族に説明している。また、面会時や運営推進会議時・行事参加時(誕生日会・敬老会・試食会)・施設便り送付時・電話等で家族からの要望や意見を聞く機会を設けている。玄関に「ご意見箱」を設置している。また、利用者のこうしてほしいと言う言葉を拾いあげる為に「要望承り書」に作成し苦情に繋がる前に汲み取り未然に防いでいる。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議や行事への参加時、面会時、電話、ご意見箱などで家族からの意見や要望を聞き、「要望承り書」や業務日誌に記載し職員が共有して対応している。職員の言葉づかいや不適切な対応について意見があり、内部研修で学んでいるなど、反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議時や年2回の個人面接時に、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。日常業務の中でも提案などが出しやすい雰囲気づくりにしている。職員から家族の体調不良時や冠婚葬祭等があれば、勤務調整を行っている。	月1回の「職員会議」や年2回の運営者の個人面接で職員の意見や提案を聞いている他、日頃の業務の中で職員が意見や提案を出しやすい環境づくりをしている。職員の家庭の事情や資格取得に合わせた勤務体制の変更、希望する外部研修への参加、業務分担を担当制にして行事や業務への意見や提案を活用しているなど、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は職員会議にて職員の意見や要望を聞くと共に常日頃から離しやすい環境を作れるよう心掛けている。 労働条件に於いても、子育て中の職員には、働きやすい時間にて対応している。 また、定年を65歳に引き上げも行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員に募集情報を伝え、段階に応じ勤務の一環として参加機会を与えている。また、受講後は、職員会議で復命報告している。報告書は回覧し職員間で共有するように心がけている。 平成28年度老人福祉施設新人研修(4/25山口県ひとつくり財団主催) 老人福祉施設中堅研修(6/18山口県ひとつくり財団主催) 地域のつながり地域の力(6/25山口県宅老・GH協会) すぐに使えるGHレクリエーション(8/30山口県宅老・GH協会) GHの有り方と今後の展望(10/1山口県宅老・GH協会) 施設見学会(10/12山口県宅老・GH協会) 災害対策から安心に繋がる仕組み作り(11/26山口県宅老・GH協会主催) 癌患者の在宅支援事例検討会(11/16長門病院主催)	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は報告書を回覧し、職員会議で復命している。内部研修は、毎月の職員会議に併せて年11回、接遇マナー、誤薬防止、感染症・インフルエンザ、口腔ケア、福祉サービスの基本理念、食中毒、防災マニュアル、介護記録、虐待予防、レクリエーション、AED講習、救急救命講習、施設見学報告、身体拘束、ノロウィルス等のテーマで、研修に参加した職員や看護師が講師を務めて実施している。新人研修は管理者や先輩職員が日常のケアの中で指導している。資格取得のために勤務時間の調整をするなど支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、山口県宅老所・グループホーム協会に所属し、GH協会開催の施設見学や研修会に積極的に参加している。 施設長はGH協会の理事も務めている為、県内同業者の他、全国グループホーム団体役員などと情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用中のサービス事業者や病院、自宅に出向き、本人の状態や情報収集を行っている。また、担当ケアマネからも情報を得、職員に提示し共有理解することで本人が安心感を持てる様、具体的な検討を行なっている。 また施設見学も勧め、本人及び家族に安心感を持って頂くよう心掛けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や悩み、また施設にどのような要望を持っておられるか聴き、些細な事でも話しやすい環境作りに努めている。 また、情報収集したものを職員にも伝え、共通理解することで家族との信頼関係作りに職員も務めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当ケアマネ、病院看護師の看護添書、サービス提供事業所から情報を収集することで、初期対応の支援を見極めるようにしている。又、必要に応じて福祉用具や介護保険外のサービス利用を含め対応に努めている。 福祉用具…ベッド・歩行器・車椅子等		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・調理など生活を営む姿を支え、一方的に行う支援にならないよう心掛け、様々な事を教えて頂きながら暮らしを共にする人間関係を築いている。 更に、職員は担当を受け持ち、利用者に第2の家族という思いを心がけ接するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族付添の定期受診時に日々の様子を伝えている。また誕生日会などの行事にも誘い、本人と共に過ごせる機会を作っている。 特に担当職員は、家族との連絡を密にし信頼関係を構築し、共に本人様を支えていく必要性を意識している。また、朝の申し送りや連絡ノートを活用し、担当以外の職員も家族と共に最新の情報を共有出来る様努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、自治会の人、ご近所の人、知人、友人の来訪がある。また、手紙や葉書、暑中見舞い、年賀状などの交流を支えている。 また、我が家巡りや、地域ドライブ、馴染みの美容院の利用、コーラスサークルへの参加、地元小学校のバザーへの参加、地元公民館まつりの参加、家族の協力の元、ドライブや外泊・外出、食事会や墓詣り等、利用者が馴染みとされていた人や場所、サークル等との関係が途切れないよう支援に努めている。	家族の面会、親戚の人や元自治会の役員、近所の人、友人(仕事関係)などの来訪がある他、年賀状や暑中見舞い、手紙、はがきなどでの交流を支援している。家族の協力を得て、盆正月の外泊や墓参り、食事会に参加出来るよう支援している。地元の公民館祭りや小学校バザーへの参加、自宅周辺の思い出の場所や馴染みの道を通るドライブ(大寧寺、三隅美術館)、利用前から続けていたコーラスサークルへの参加、受診時に馴染みの人との挨拶や会話、美美容の利用など、馴染みの人や場所との交流が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間(10時・15時)のみならず日常的に利用者の中に入って話が弾む様努め、体操やレクリエーションを提供することで良好な関係を保てる様支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、面会やお見舞いに出向いている。また、相談等有れば何時でも応じられることを伝えている。 亡くなられた場合、通夜や葬儀に参列させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族、担当ケアマネジャーから生活歴や健康状態、趣味などの情報を得て入居前情報シートに記録している。 また、日常の関わり合いの中での利用者の会話や表情、様子を介護記録に記載し、連絡ノートや業務日誌にも記録し確認している。 利用者を担当する職員が、心身の情報シートまとめ、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、管理者や職員を含めて話し合い、本人本位に検討をしている。	入居前の情報を「入居前情報シート」に記録している他、日常の関わりの中での利用者の仕草や表情、言動を業務日誌に記録し、連絡ノートや介護記録で共有し、利用者を担当している職員がセンター方式のシート(アセスメントシート、心身の情報シート、私の暮らし方シート)に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合はその都度、管理者や職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前の施設や病院、担当ケアマネジャーより情報を収集するとともに、担当職員がお茶の時間や寛いでおられる時間に、些細な言葉でも拾い記録に記入し情報収集に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を確認し無理強いしない様に心がけ、朝夕の申し送り時に職員の気付きや利用者の状態を報告し情報を共有している。 また、職員は業務日誌やケース記録に必ず目を通すことで把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを行開催し、本人や家族の意向、主治医、看護師、職員等の意見を参考にして介護計画を立てている。また、家族とは、日頃のコミュニケーションの中で家族の思いを受け止めるようにしている。 6ヵ月毎にモニタリングを実施、6ヵ月毎に見直しをしている。要望や状態の変化が生じた場合はその都度見直しをして、現状に即した介護計画を立てる様努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、医師や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎に全職員が意見交換をしてモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や要望に変化があった場合にはその都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、日々の生活面、健康状態、利用者の言葉を拾う意味で会話等も盛り込み、この情報を申し送り時等に報告し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化として、併設のデイサービスとの交流や1・2号館での交流を行っている。 また、身体状況に沿った福祉用具の変更や利用を行い、その人らしい自立した生活が営めるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長門市図書館からの読み聞かせや移動図書館の利用、また地域小学校のバザーや公民館まつり等の催しへの参加させて頂いている。 いきいき音楽教室・ギター演奏会・笑いヨガ等地元ボランティアの協力も定期的に継続して得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回程度の定期受診があり、他科受診を含め家族の協力も得て受診支援を行っている。 受診時には、日々の状態やバイタル表等の書類を提示し更に口頭での情報を提供している。 受診結果は、電話にて家族に連絡をしている。 職員間は、業務日誌や連絡ノートで薬の情報を含めて共有している。また緊急時には、1号館看護師やデイサービスの看護師の協力を得て主治医や協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を家族の協力を得て支援している。受診時には情報の提供を市、月1回の定期受診の他、必要に応じて職員が受診支援を行っている。職員は連絡ノートや業務日誌で情報を共有し、家族には電話やメールで報告している。日頃から法人の看護師と相談し緊急時や夜間には協力医療機関と連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内(グループホーム・デイサービス)に勤務している看護師に、日々細やかな情報も共有し相談しながら適切な対応が受けられるよう心掛けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室やソーシャルワーカーそして病棟との連絡を密にしている。また、入院されてからは「ささえあい連絡表(介護添書)」を直ぐに作成し利用者の情報を伝えている。退院に関しては、地域連携室を通して病院に出向き、病棟あるいは担当看護師から情報を得る事で早期退院に向け体制を整えている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期ケアは行っていないが、契約時に「急変時における対応についての同意書」に急変時の家族の意向を伺うようにして事業所で出来る対応について家族に説明をしている。 重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、地域連携室を通して主治医や看護師等の助言を得て、医療機関や他施設への移行等の方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明し、「急変時における対応についての同意書」で意向確認を行っている。実際に重症化した場合は、早い段階から、家族やかかりつけ医と相談し、医師の指示を介護計画に反映し、病院や他施設への移設も含めて方針を決めて、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止マニュアルを作成している。事例が発生した時は、ヒヤリハット・事故報告書に詳細を記録し、その日の職員間で再発防止策を検討して記録している。その月の事例を職員会議に於いて検討して再発防止に取り組んでいる。 また、半年毎に「GHヒヤリハット・自己分析表」を作成し、事故対策委員会にて対策会議を行った後、全職員に回覧し徹底を図っている。 事故発生の取り組みについては、消防署職員からAEDを含む救急救命法を受講している他、施設内看護師(1号館・デイサービス)による指導、食中毒、感染症、救急車を呼ぶ場合等の研修を受け実践を身につけるようにしている。	事例が生じた場合は、その日の職員で再発防止策について検討し、ヒヤリハット・事故報告書に記録して、職員会議で再度検討し、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。運営推進会議で報告をし、半年毎に「GHヒヤリハット・自己分析表」を作成して事故防止対策委員会で検討し全職員に回覧している。年1回消防署の協力を得てAED使用訓練や救命救急の訓練を実施している他、年6回事業所や法人の看護師による誤薬防止、感染症・インフルエンザ、食中毒、ノロウイルス対策などについての研修を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>消防署と消防団の協力を得て昼・夜想定避難訓練及び防災訓練を実施している。 H28.6.13昼間想定危難訓練(消防団6名協力)…消火器噴霧訓練実施 H28.10.26夜間想定避難訓練…AEDを使用した救急救命法受講 H28.7.14防災訓練(災害ボランティア1名協力)</p> <p>上記の如く、消防団や地域の協力も得、利用者と一緒に避難誘導、消火・通報訓練を実施している。 また、事業所独自の災害ボランティアには、民生委員・地域住民・消防団の登録があり、連絡網を作成し協力が得られるようにしている。事業所として地域の避難受け入れ態勢も整え、備蓄をしている。</p>	<p>年3回、消防署や消防団、災害ボランティアの参加と協力を得て、昼夜間を想定した消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施し、運営推進会議で報告し、検討している。 地域の人や消防団員、民生委員が事業所の災害ボランティアに登録し、緊急連絡網を作成しているなど、地域との協力体制を築いている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>一人一人に対して人間としての人格を尊重し敬意を持って接するよう心掛け、内部研修も行っている。 特に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が気にかかる職員に対しては、施設長・管理者が指導し、職員間に於いても話し合いを行っている。 個人情報の取り扱いや、守秘義務は遵守している。</p>	<p>内部研修で接遇について学び、職員は理解して、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところは運営者や管理者が指導し、職員間で話し合っている。個人情報の取り扱いに配慮し、守秘義務の遵守に努めている。</p>	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>利用者の思いや希望に耳を傾け、体操・レクリエーション・入浴等の日中活動に対して無理強いせず、自己決定出来る様支援している。</p>		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>可能な限り個人のペースを大事にしている。 行事やレクリエーションも本人が参加するかどうか決めるように支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪の依頼をし希望によっては行きつけの美容院や理髪店にも出掛けている。モーニングケア後には、髪をとく、ベビーローションを付ける、髭を剃る等の支援を行っている。また、季節に合わせた衣服を準備している。時には、メイクセラピーも行い、おしゃれが出来る様支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は地産地消に努め、収穫した野菜や地元の魚を使って三食とも食事作りを行っている。季節の行事食や、誕生日食、季節のおやつ作り(おはぎ・いぎの葉団子・水ようかん・チーズケーキ・ロールケーキ・蒸しパン・ゼリー等)を行う事で、楽しみながら食事が出る様心がけている。今年は初めて「試食会」を実施し、その際に利用者にもアンケートを取り、個人個人の好みも把握し楽しみに繋がる食事の支援を行っている。また食材の買い物や米とぎ、下ごしらえ、盛り付け、配膳・下膳、テーブル拭き等出来る所で協力を得ている。	献立を担当する職員が利用者にアンケートを実施し、利用者の好みを反映させた献立を立て、収穫した野菜や地元の食材を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は食材の買い物や下ごしらえ、米とぎや盛り付け、配膳下膳、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にしている。行事食や誕生日食(その人の好きなメニューに変更)、外食(弁当を持つての花見やドライブ、喫茶)、外庭で手づくり弁当を楽しんだり、家族や地域の人との試食会、家族の協力を得ての外食、おやつづくりなど、食事を楽しむことができるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の配置は無く、職員がバランスを考え家庭で作るような献立をたてている。食事・水分チェック表にて一日の摂取量を記入することで状態を把握している。また、個々の嚥下状態や口腔状態に応じて量や食べやすい形に調整している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のお茶嗽に始まり、食後は入れ歯や歯の洗浄の後うがいを行っている。就寝前は義歯洗浄後、入れ歯洗浄剤に浸けて消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排泄状況を把握し、3日間以上排便が無い場合は、緩下剤の滴下や服用を促している。また、日頃から薬に頼りすぎ無い様、歩行運動や体操、牛乳やヨーグルト等の乳製品やオリゴ糖、果物ではバナナなどを摂って頂き予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日曜日以外毎日、午後1時30分から午後3時頃迄、行事がある場合は午前9時30分から午前11頃迄の間で、一人ひとりの希望に合わせてゆっくり入浴が楽しめる様支援している。入浴したくない人には、時間を変更したり、声かけの工夫をするなどの支援をしている。 また、体調に合わせてシャワー浴、清拭、足浴、手浴、部分浴等それぞれに応じた入浴の支援を行っている。	入浴は日曜日を除く毎日、13時30分から15時の間可能で、行事や利用者の状態に合わせて時間を変更して、ゆったりと楽しみながら個々に応じた入浴支援を行っている。入浴したくない人には、時間を変更したり、職員が交代して声をかけるなどの工夫をしている。状態に応じ部分浴やシャワー浴、清拭等などの支援がある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や慢性的な疾病・その時々心身の健康状態等に合わせ、日中の休息が自由に行えるようにしている。 夜間は消灯時間は無く、早く寝る人、テレビを観て寝る人、其々の生活習慣を否定せず気持ちよく入眠出来る様支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を綴っており職員は確認をしている。受診後服薬変更等あれば、業務日誌や連絡ノートを活用し伝達を徹底している。 服薬マニュアルに沿って服薬セットを行い、誤薬予防の為、4重チェックを行い本人が服薬し終わるまで確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週刊誌の購読、新聞や雑誌・本を読む、テレビの視聴、移動図書館、移動パン屋の利用、併設デイサービス利用者との交流、きりり児童との交流会(豆まき、夏祭り、ハロウィン等)、ボランティア(フラダンス・踊り・琴演奏・歌・ハンドベル・メイクアップ・いきいき音楽教室・ギター演奏会・笑うヨガ・法話・書道・読み聞かせ等)との交流、健康体操、歩行運動、足ふみ体操、棒体操、ラジオ体操、方言体操、口腔体操、アロママッサージ(ハンド・フット)、風船バレー、ボール投げ、テーブルピンポン、塗り絵、ちぎり絵、貼り絵、季節の壁面作り、数字盤、文字盤、トランプ、ことわざ、しりとり、俳句作り、日記作り、漢詩を読む、脳トレ(計算問題、漢字の読み書き、間違い探し等)、広告ごみ箱作り、編み物、刺し子、誕生日会、野菜の収穫、花植え、草取り、手すり拭き、箒で掃く、洗面所清掃、洗濯物干し、洗濯畳み、米とぎ、テーブル拭き、ランチョンマット拭き、下ごしらえ、食事の味見、食器洗い、配膳、下膳、季節の行事(夏祭り、お月見、敬老会、運動会、クリスマス会等)の楽しみごとや気分転換の支援をしている。	季節の行事(お月見、運動会、クリスマス会、ハロウィン、豆まき、夏祭り、敬老会)、誕生会、試食会、ゆうなぎ喫茶、ボランティア(お話ポケット、法話、書道、フラダンス、歌と踊り、ハンドベル、お笑いヨガ、いきいき音楽教室、ギター演奏、ドックセラピー、琴、ピアノ、金管楽器演奏等)との交流、週刊誌の購読、新聞や雑誌、本を読む、習字、花を生ける、編み物、刺し子、縫い物、テレビの視聴(連続テレビ小説、歌謡番組)、移動図書館の利用、指体操、魚の説明、ゲーム(数字盤、文字盤)の進行係、洗濯物干し、洗濯物たたみ、米とぎや配膳、お茶を入れる、テーブル拭き、ランチョンマット拭き、夕方にブラインドやカーテンを閉める、野菜の収穫、花植え、草取り、手すり拭き、拭き掃除、洗面台清掃など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣や周辺の散歩、買い物、四季の花見(梅・桜・つつじ・しゃくなげ・芝桜・紅葉)、ドライブ(市内・萩松陰神社・さんさん三見・於福道の駅・俵山河川敷公園・角島大橋・別府弁天池等)、地元小学校バザーの参加、地元公民館まつり参加、地元コーラスサークルへの参加、ピクニックの他、家族の協力を得て奉賛会参加、外出、外泊、墓参り等、都外に出かけられるよう支援している。	利用者のその日の体調や希望に合わせて自由に近隣の散歩や日常品の買い物にスーパーへ行っている。家族の協力で外出外食や外泊を楽しむことも出来る。季節の花見(紫陽花、石楠花、紅葉)道の駅(サンサン三見、シーマート)、ドライブ(仙崎、油谷、角島、弁天池、大寧寺、三隅美術館)、公民館祭り、小学校のバザー、仙崎花火大会、外出散髪、自宅巡り、コーラスサークルへの参加、買い物(食材、大型スーパー、地元の衣料品店)、外食、散歩、家族の協力を得ての外泊や外出、外食、墓参りなど、日常的に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは、家族から預り金として施設が預かり、外出買い物や移動パン屋等買いたいものがあれば何時でも購入できるようにしている。中には職員と一緒に買い物や食事を楽しまれる利用者もおられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族から電話があれば何時でも電話口に出てもらっている。また、希望があれば電話を掛け本人に替わっている。手紙のやり取りも行っており、必要であれば職員が葉書を購入するなどの支援を行っている。また、書きあがった手紙を職員が預かり投函している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は大きな窓から入る陽ざしで明るく、居室を空けると海を眺めることが出来る。観葉植物やアロマの香りで心なごめる雰囲気づくりをしている。壁面には、習字や季節の壁画を飾っており、季節に応じた飾りつけを行っている。また、テレビを囲んでテーブル・ソファ・畳の間があり、利用者一人一人の居場所となっている。 台所は対面式となっており、台所からは調理する音や匂いを感じることが出来る。トイレや洗面所は常に清潔を保つよう心掛けている。また、温度や湿度換気に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	天井が高く窓が広く壁には季節に応じた利用者の作品(習字)や行事の写真が飾られており居心地の良い明るい空間になっている。高台に位置するため白潟湾を臨む眺望は季節感を感じることが出来る。心が和む調理の音や匂いのするオープンキッチンになっており食事を身近に感じる事が出来る。畳のコーナーもありアロマの香りの中でゆったりくつろぐことができ、室内温度や湿度、換気に気を配り居心地よく過ごすことが出来るように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファに腰かけたり、リビングテーブルでお話をされたり、休みたいときは畳コーナーで休まれるなど思い思いに過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、衣装ケース、ベッド、机、椅子、テレビ、鏡、時計、ぬいぐるみ、観葉植物、髭剃り、化粧品、家族の写真、カレンダー、習字や塗り絵などの作品を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド、箆笥や、テーブル、椅子、テレビ、縫いぐるみ、ひげ剃り、化粧品などの使い慣れたものを持ち込み、思い出の家族写真、カレンダーや観葉植物、作品など飾って、利用者が以前と変わらず安心して過ごせるよう、その人らしい居心地の良い空間を作っている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器、シルバーカー、手すり等を配置し利用者が安全で安心して生活できる様配慮している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

作成日: 平成 29 年 4 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	応急手当や初期対応を全職員が身につけられる様にする。	施設内看護師による応急手当や緊急時の対応について講習を受ける。(1/3か月) 消防士によるAEDの講習並びに応急手当の講習を受ける。 施設内研修にて感染症研修を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。